

薬理学 C・D 講義

2 単位 3 年 (後期)

Pharmacology

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川 康子・准教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)
 岩田 武男・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 福井 裕行・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 玉置 俊晃・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 中屋 豊・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 板東 浩・非常勤講師, 桑島 正道・非常勤講師

【授業目的】薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。

【授業概要】薬物と生体の相互作用の結果おこる現象や作用機序について、個体レベル、細胞レベルおよび分子レベルで学ぶ。

【授業形式】講義

【授業方法】講義 (プリント, スライド)

【授業場所】第 1 講義室

【授業テーマ】薬物の作用および薬物と生体の相互作用を生理学的・生化学的基礎から理解する。

【履修上の注意】

- ・受講者は毎回の講義において、予習・復習の内容を予習・復習帳にまとめること。
- ・予習・復習帳の提出を求められることがある。
- ・試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

- 利尿薬・輸液について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 血液疾患治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 呼吸器病治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 消化器病治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 平滑筋に作用する薬物について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 内分泌疾患治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- ビタミンの作用、静脈栄養・経腸栄養について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 糖尿病、脂質異常症、痛風治療薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 局所麻酔薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 鎮痛薬・解熱鎮痛薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗炎症薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 防腐薬・消毒薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>

- 腐蝕薬と収斂薬の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗感染症薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 免疫調節薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 抗悪性腫瘍薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 中毒治療薬について説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 口腔疾患に用いられる薬物の種類と作用メカニズムを説明できる。 <D-5-(2)-3>
- 漢方薬の特徴を説明できる。 <D-5-(2)-3>

【授業計画】

	大項目	中項目	内容	到達目標	担当
1~2.	薬理学各論	体液平衡作用薬	腎臓の機能, 利尿薬	1	玉置
3.	〃	血液系作用薬	抗凝血薬, 貧血に用いられる薬物, 抗血小板薬	2	吉本
4.	〃	呼吸器系作用薬	呼吸興奮薬, 鎮咳薬, 去痰薬, 抗喘息薬	3	〃
5.	〃	消化器系作用薬	消化管・肝・膵疾患治療薬	4	石川
6.	〃	平滑筋作用薬	収縮薬, 弛緩薬	5	〃
7~8.	〃	内分泌系作用薬	ホルモンおよび拮抗薬	6	吉本
9~10.	〃	代謝系作用薬	糖尿病・脂質異常症・痛風・肥満治療薬	8	吉本 桑島
11~12.	〃	ビタミン・栄養, 輸液	ビタミン薬, 静脈栄養, 経腸栄養, 輸液	1, 7	水澤
13~14.	歯科薬理学各論	局所麻酔薬	コカイン, 合成局所麻酔薬	9	石川
15~16.	〃	麻薬性鎮痛薬	モルヒネ関連の鎮痛薬, 拮抗薬	10	〃
17.	〃	解熱鎮痛薬	非ピリン系・ピリン系薬	〃	〃
18~19.	〃	抗炎症薬	ステロイド系抗炎症薬, 非ステロイド系抗炎症薬	11	吉本
20.	〃	防腐薬	防腐, 消毒	12	石川
21.	〃	腐蝕薬と収斂薬	腐蝕, 収斂	13	〃

22~24.	〃	抗感染症薬	抗菌薬, 抗ウイルス薬, 抗真菌薬, 抗結核薬, 抗原虫薬	14	吉本
25.	〃	免疫系作用薬	免疫刺激薬, 免疫抑制薬, 抗アレルギー薬	15	〃
26~27.	〃	抗悪性腫瘍薬	抗腫瘍薬, 分子標的治療薬	16	石川
28.	〃	中毒と薬	中毒, 解毒薬	17	吉本
29.	〃	口腔疾患治療薬, 漢方薬	歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, 口腔粘膜治療薬, 漢方医学, 漢方薬の特徴	18, 19	〃
30.	〃	口腔機能作用薬	唾液腺・味覚・骨に作用する薬	18	石川

【成績評価】評価は筆記試験により行う。試験は3年次後期試験期間中に実施する。100点満点で60点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】

- ◇プリント:必要に応じてプリントを配付する。
- ◇参考書:歯科薬理学, 第5版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇参考書:現代歯科薬理学, 第4版, 2005年(医歯薬出版)
- ◇参考書:New 薬理学, 第5版, 2007年(南江堂)
- ◇参考書:臨床薬理学, 第2版, 2003年(医学書院)
- ◇参考書:カラー図解 これならわかる薬理学, 2006年(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
- ◇参考書:イラストレイテッド薬理学, 原書4版, 2009年(九善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217367>

【連絡先】

- ⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・教授室))
- ⇒ 石川 (088-633-7332, isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・准教授室))
- ⇒ 水澤 (分子薬理学, 088-633-9137, mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))
- ⇒ 岩田 (088-633-9137, iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))